

### 三か月後の報告(十月七日)

『(前略)漢字ゲームを始めてから、ちょうど三か月を経過した現在、約五十字の漢字が読めるようになり、(注、参考までに言いますと、小学校で一年間に学習する漢字の数が二百字を越える学年はありません。つまり、三か月間に五十字以上の漢字を学習させることはないのです)よくこんなに覚えたものだ、家内と話し合っています。

八月末に、長男が盲腸で入院して、付き添いのため、約二週間くらいまったくできなかつたので、実際は、二か月半で五十字の漢字を覚えたこととなります。(中略)

夜、風呂に入る前に、気分の良い日にはカルタ取りの形式で取らせていますが、自分から進んで、「ゲームをやろう」と言う日が増えてきて、喜んでいます。

昨日は、おばあちゃんと風呂に入って、タオルの字を読んだ、ということ、おばあちゃんも大喜びでした。長男の入院中、病院のエレベーターの中で、愛子が“電話”という字を見つけ、「お父さん、電話と書いてある」と言ったり、朝、新聞を読んでいると、知っている漢字を見つけて読むこともあります。

テレビも、時間は短いですが、長男と一緒に、笑いながら見ることがあるようになってきました。

先生の“赤いろうそく”(“楽しい漢字”の中の本の一冊で、文章はレコードで聞くこともできるようになっている)のお話は、まだ内容がわからないようですが、引き続いて、テープに吹き込んで、時折聞かせております。

アスクミーは、少しずつ興味が出てきており、遊ぶようになってきて

います。(中略)

最近、漢字を覚えるペースがやや遅くなってきています。また、友達との遊びの様子を見ていますと、やはりまだまだ友達の中に混じって一緒に遊ばせん。早くお友達と一緒に遊べるようになってくれたらと思っています。(中略)

話が思うようにできず、従って話が通じないので、友達との接触がうまくできないこと、仲間として入っても、仲間にされないことなどで、自分の思うようにならないため、砂をかけたり、かけられたり、石を投げたりすることもあるようです。(中略)

最近、夕食時に、愛子がペチャクチャといろいろ言うようになってきて、明るくなっていることを喜んでいます。長男の小学校での話を聞いて相手になったり、話の中で「何？ 何？」とばかり言っていたのが、今では「どうしたの？」「どうなったの？」「どうやった？」等の言葉が出るようになってきています。

以上のように、漢字ゲームのおかげで、順次、頭も少しずつしっかりして来ているのを喜んでいますが、昨日、幼稚園を訪れて、同年齢の子供たちを見ておりますと、愛子は、確かに進歩成長してきてはいるのですが、他の友達との差が、だんだんと大きくなっているように感じます。

先生、このように良くなってくれますと、また欲が出て、もっと良くなってほしい、と思う親心ですが、今後、愛子に対する学習方法は、同じやり方で続けて行けば、よろしいのでしょうか。ほかに学習させることなど、先生のお気づきになられます点を、よろしく御指導下さいますよう、お願い申し上げます。』